

ジョンソン・エンド・ジョンソン 社会貢献レポート

2006年版

ごあいさつ

ジョンソン・エンド・ジョンソングループは、企業理念「我が信条(Our Credo)」に則り、地域社会への責任を果たすため、世界各地で「健康」をテーマに社会貢献活動に取り組んでいます。日本では、5つのグループ企業が共同でジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会を組織し、各社から参加している社員メンバーが中心となって活動を推進しています。

私たちは有益な活動を行っている非営利団体とのパートナーシップにより、社会の課題の解決をめざしたプログラムを行っています。また、自然災害被災地への緊急支援、さらには社員から申請のあった活動団体への寄付や社員のボランティア活動への参加など、社員ひとりひとりの社会貢献意識を反映させた活動を行っています。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の設立から6年目を迎え、私たちの活動も少しずつ根をおろしてきました。2005年には、青少年を対象としたライフスキル教育や若者によるHIV/AIDS啓発活動、世界自殺予防デーと連動したフォーラムの開催などに取り組みを広げ、より多くの人々へのサポートへとつながりました。また、ボランティア活動に参加する社員の数にも増加が見られました。このレポートを通して、私たちの社会貢献への着実な歩みをご理解いただければ幸いです。

最後になりましたが、日頃からの皆さまの温かいご理解、ご協力に、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会
委員長 大瀧 守彦

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー代表取締役





プログラム

P3-6

子どもが

幸せに育つ環境をつくるために。

- ・子どもの事故防止セミナー
- ・思春期のライフスキル教育プログラム

P3

女性が

いつも生き生きと明るい存在であるために。

- ・女性のからだところの健康情報
- ・HIV/AIDS 啓発活動

P4

医療従事者の

スキルアップで質の高いケアを。

- ・認定看護師の学習支援

P6

こころが

元気な社会をめざして。

- ・精神疾患への啓発活動
- ・自殺防止プロジェクト

P5

高齢者の

生きがいのある暮らしのために。

- ・世代間の交流
「寺子屋回想法」
- ・リーダー養成ワークショップ

P6



寄付活動

P7



緊急災害支援

P7-8



ボランティア活動

P8

海外での社会貢献活動 P9

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会 P10

子どもが幸せに育つ環境をつくるために。

子どもは無限の可能性を秘めています。かけがえのない一人の人間であるとともに、地域社会や国、ひ

いては全世界の将来を担う大切な存在です。子どもの健やかな成長は、大人、そして社会全体の責任です。私たちは、ひとりひとりの子どもが健康でこころ豊かに育ち、希望に満ちた未来へ大きく羽ばたくことができる環境づくりをめざした活動を支援しています。

子どもの事故防止セミナー

厚生労働省の調査によると14歳未満の子どもの死因第一位は「不慮の事故」です。階段からの転落や浴室でのおぼれ、薬品やタバコ・電池などの誤飲など、周りの大人が注意すれば防ぐことができたものも少なくありません。社会全体が子どもの安全について知識を持ち積極的に取り組むために、2003年から保育士・保健師など子育てに関わる職業に就いている人やその職業をめざしている学生を対象としたセミナーや、親子を対象としたワークショップの開催を支援しています。

2005年には、東京都4ヶ所と福島県、岐阜県で行い、約900名が参加しました。

支援団体:財団法人東京救急協会
<http://www.teate.jp>



思春期のライフスキル教育プログラム

友だちや家族との関係、タバコやドラッグへの誘惑など、青少年は日常生活でさまざまな困難に直面します。そしてその困難をどのように対処するかということが、子どもたちの将来にまで影響を及ぼすこともあります。青少年が自分自身の力でこの困難をのりこえるスキルを身につけるために、「思春期のライフスキル教育プログラム」の普及を支援しています。主に小中学校の教員や教育関係者を対象に、教育の現場で生徒たちにライフスキル教育を実践するためのワークショップを開催しています。

支援団体:特定非営利活動法人青少年育成支援フォーラム(JIYD)
<http://www.jiyd.org>



女性がいつも生き生きと明るい存在であるために。

女性は家庭にあつては家族の健康に気を配り、精神的な支えになり、未来を担う子どもを育てるという重要な立場にあります。また、社会の一員として、よりよい社会をつくるために大切な役割を果たしています。女性自身が健康で充実した生活を送ることができるかどうかは、家庭や社会が健全に営まれるか否かをも左右するでしょう。私たちは、いつも女性たちが生き生きと輝くことができる社会をめざしています。

女性のからだところの健康情報

女性のからだは生涯のうちに何度も変化します。しかし、情報が限られていたり相談しづらいために、ひとりで不安になることが少なくありません。

女性が自分の健康について正しい知識を持ち、適切な意思決定ができる環境が必要と考え、女性向けの健康情報を提供しています。

ウーマンズヘルスウェブ <http://jfpa.info/wh>

女性のからだやところの健康に関するインターネットのウェブサイトです。自分の健康に疑問や不安があるとき、信頼できる情報を得ることができます。

サイトの訪問者数は、スタート当初の約4倍に増加しました。



ガールズナビ <http://girlsnavi.jp>

10代から20代の女性向けに、性や健康への意識を高めることを目的とした携帯サイトです。

支援団体:社団法人日本家族計画協会
<http://www.jfpa.or.jp/>

声の花束 <http://www.koetaba.net>

視覚障害や活字メディアによる情報の入手が困難な女性のために、「ウーマンズヘルスウェブ」の情報を音声で発信するウェブサイトの運営を支援しています。

支援団体:社団法人日本フィランソロピー協会
<http://www.philanthropy.or.jp>

女性のための健康セミナー

女性関連施設で健康に関するセミナーを開催しています。セミナーの内容は小冊子にまとめ、より多くの女性に届くよう全国の女性関連施設に配布しています。

支援団体:財団法人主婦会館
<http://www.plaza-f.or.jp/>



HIV/AIDS 啓発活動

HIV/AIDSの広がりは今や全世界共通の問題になっており、日本も例外ではありません。

女性に深刻な影響を及ぼす性感染症防止への取り組みの中で、HIV/AIDS啓発活動を支援しています。

第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議
ユースフォーラム2005

アジア各国から参加した若者が、講演会やパネルディスカッションなどを通じて、HIV/AIDSの予防啓発、感染ケア、社会との関わりなどを考え、今後の活動の提案につなげました。

支援団体:第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議
ユースフォーラム実行委員会

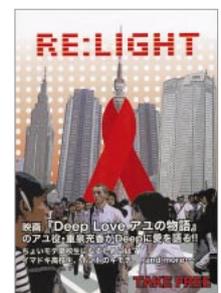
<http://www.icaap7.jp/jpn>



若者向けフリーペーパー「RE:LIGHT」

「保健室でもカフェでも読める」をコンセプトに、若年層、特に高校生に向けてHIV/AIDSの正しい知識や予防法などを掲載した無料小冊子「RE:LIGHT」を制作し、学校やカフェなどで配布しました。

支援団体:早稲田大学公認
イベント企画サークルqoon
<http://www.qooner.net>



こころが元気な社会をめざして。

充実した生活を送るためにはからだの健康と同じようにこころの健康も大切ですが、現代の生活の中では仕事や人間関係の悩みやストレスなどから、気持ちが弱くなったり自信を失ったり、精神的な病気にかかったりすることが少なくありません。私たちは、こころへの負担が少ない環境と精神疾患に理解のある社会をめざし、精神疾患についての啓発活動や自殺防止のプロジェクトを支援しています。

精神疾患への啓発活動

うつ病や統合失調症などの精神疾患は、適切な治療によって症状が改善される病気であるにもかかわらず、社会にはいまだに偏見や誤解が残り、精神疾患をもつ人たちの社会生活を狭めています。

精神疾患に対する正しい知識の普及と、病気をもつ人たちの社会復帰や生きがい発見を応援しています。

第5回全国こころの美術展

精神疾患をもつ人たちの絵画の公募展「全国こころの美術展」には、毎回数百点の応募があり、入選作品100点が一般公開されます。精神疾患をもつ人にとっては、作品を通じて言葉では伝えきれない気持ちをありのままに表現し、自分自身の存在を社会へ示すきっかけとなります。また、想像力豊かな作品は、一般の人々の精神疾患に対する理解の促進につながります。

2004年の第4回展に続いて2005年の第5回展の開催を支援しました。

支援団体:財団法人全国精神障害者家族会連合会(全家連) [主催]
<http://www.zenkaren.or.jp>

[共催]:(社)日本精神科病院協会、(社)全国精神障害者社会復帰施設協会、(NPO)全国精神障害者地域生活支援協議会、全国精神保健福祉相談員会、(NPO)全国精神障害者団体連合会、(社)日本精神保健福祉士協会、(社)日本精神科看護技術協会、(社)日本作業療法士協会



自殺防止プロジェクト

日本では1998年以降、毎年3万人以上の人々が自殺で亡くなっています。理由はさまざまですが、社会的な弱者が「死」へと追い詰められていく実情があると言われていいます。また、遺された人々は、長期にわたって深刻な心理的影響を受けると考えられています。

自殺防止は、社会全体で取り組むべき大きなテーマの一つとなっています。

世界自殺予防デー 緊急フォーラム

2005年9月、日本で初めて開催されたWHO(世界保健機関)の世界自殺予防デーと連動した緊急フォーラムを支援しました。

医師や弁護士、NPO、自死遺族、僧侶などさまざまな立場から自殺対策に携わる人々が集まり、「日本の自殺対策のグランドデザイン(全体構想)」についてディスカッションを行い、横断的なネットワークづくりをめざしました。

支援団体:特定非営利活動法人自殺対策支援センターライフリンク
<http://www.lifelink.or.jp>



あなたにもできる自殺防止活動の実際 in 秋田

自殺対策に積極的に取り組む秋田県で開催された保健福祉関係者やNPOなど、最前線で自殺防止に携わる人たちのワークショップを支援しました。参加者はより効果的な自殺防止活動を目指し、お互いの活動の共有やロールプレイなどを行いました。

支援団体:特定非営利活動法人国際ピフレンダース東京自殺防止センター
<http://www1.odn.ne.jp/ceq16010/>

高齢者の生きがいのある暮らしのために。

高齢化が進む社会の中で、社会的役割や人間関係の喪失、身体機能や認知機能の低下などにより、自信を失い、孤立感や不安感を持つ高齢者も増えています。私たちは、高齢者が充実感を持って過ごせる社会をめざし、「高齢者のこころとからだの自立」をテーマにした活動を支援しています。

世代間の交流「寺子屋回想法」

高齢者のこころの活性化を促すこととして、高齢者と若い世代が集い、同じ体験を通して語り合う場を設けました。一つのテーマをきっかけに、高齢者は自分の記憶を若い人々に伝え、受け入れられることによって自分自身の人生を価値あるものと再確認しました。また、若い世代にとっては、人生の先輩から大切なものを学ぶ機会となりました。お互いの存在を認め合いながらこころを支え合いました。



リーダー養成ワークショップ

高齢者と若者世代の豊かな交流をめざした「寺子屋回想法」を全国各地へと広げていくために、その地域、その人ならではのプログラムを企画・運営できるリーダーを養成するワークショップを開催しました。参加者たちは一定期間の実践の後、発表会でお互いの活動を共有し、さらに効果的な取り組みをめざします。



支援団体: 慶成会老年学研究所

<http://www.007.upp.so-net.ne.jp/s-clinic/kenkyujo/kenkyujo-top.htm>

医療従事者のスキルアップで質の高いケアを。

病気やけがの患者さんや健康に不安を感じる人たちにとって、医療の専門家はなくてはならない存在です。そして質の高い医療や適切なケアは、患者さんの症状を改善するとともに医療への信頼にもつながります。私たちは、医療従事者のスキルアップをめざした活動を応援しています。

認定看護師の学習支援

高度な看護ケアの必要性が強まる中、1996年日本看護協会は、特定の分野ごとに熟練した技術と知識をもち、水準の高い看護や指導ができる認定看護師の育成をスタートさせました。

しかし、高い専門性を維持するためには最新の医療情報の更新や知識の習得は欠かせません。認定看護師をサポートするために、好きなときに自分のペースに合わせて学習が可能なeラーニングプログラムの構築と運営を支援しています。



支援団体: 社団法人日本看護協会

<http://www.nurse.or.jp/>



寄付活動

社員から申請された非営利団体に対して、寄付を行っています。自らボランティアとして参加する団体、活動を応援している団体など、社員の社会貢献への気持ちがジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会の取り組みにもつながっています。

支援団体: 日本チェアスキー協会

1980年に設立された日本チェアスキー協会は、下半身に重度の障害をもつ人たちがスポーツを通じて生活の質を向上させることを目的にチェアスキーの普及に取り組んでいます。現在会員は、障害をもつチェアスキーヤー約200名とサポートスタッフ約100名。全く初めての人からレース競技を楽しむベテランまで、参加者の層も年々厚くなっています。障害をもつ人たちが安全にチェアスキーを楽しむためには、リハビリテーションの知識や障害者への理解がある指導員の育成が不可欠です。ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、チェアスキー指導者育成のための研修会開催費用の一部を寄付しました。



私は学生時代ずっとスポーツを続け、そこから喜びや満足感、感動、人と人との信頼感や思いやる気持ちなど、言葉には尽くせないたくさんのものを得ることができました。もし障害があるためにそのような経験ができないとしたら、同じ人間として不公平なことだと感じます。2004年、初めてボランティアとしてチェアスキー大会の運営に関わり、障害をもつ人たちがスポーツに参加できる機会の重要性を実感しました。これからも自分にできることでこの活動を支援していきたいと考えています。



ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)
メディカルカンパニー 古川 裕子

その他の寄付先(50音順)

あやめ会「窓の会」プロジェクト、いのちの電話、ウイメンズネット・こうべ、うつコミュニティ、関西学院大学上ヶ原ハピタット、KIDS、こころに平和を実行委員会、子育てサポーター・チャオ、骨髄移植推進財団、子どもの虐待防止ネットワーク・あいち、こどもプロジェクト、埼玉県膠原病友の会、主婦会館、障害児の積極的な活動を支援する会にわとりクラブ、女性のからだと性の相談全国ネットワーク会議、新宿西共同作業所・ラバンス、青少年健康センター、チェルノブイリ医療基金、チェルノブイリ親の会 ベラルッセ、東京肝臓友の会、日本IDDMネットワーク、日本盲人マラソン協会、病氣とたたかう子どもたちに夢のキャンプ(そらぶちキッズキャンプ)を創る会、フードバンク関西、フローレンス、メノポーズを考える会



緊急災害支援

自然災害によって大きな被害もたらされた国や地域に対して、被災した人々の生活やコミュニティの再建を支援する活動を行っています。社員からの募金に会社からの拠出金を加えた寄付金や被災地のニーズに合った製品を送っています。

台風14号

2005年9月、長崎県に上陸した台風14号は、広い暴風域を維持したままゆっくりとした速度で進み、長時間にわたって高波、暴風、大雨をもたらしました。特に九州と四国地方では記録的な大雨となり、各地に多くの深刻な被害を残しました。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、中でも被害の大きかった宮崎県、鹿児島県、山口県へ、日本赤十字社を通じて寄付金合計50万円を送りました。



写真提供：日本赤十字社

ハリケーン カトリーナ

2005年8月、アメリカ南部を襲った大型ハリケーン「カトリーナ」は、市の8割が水没したといわれるニューオーリンズ(ルイジアナ州)をはじめ、アラバマ州、ミシシッピ州などアメリカ南部に大洪水を引き起こしました。復興には数年の歳月と莫大な費用が必要といわれています。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、ニューオーリンズを拠点として貧困層や高齢者等への支援活動を行っている非営利団体Willwoods Communityに100万円を寄付しました。

また、アメリカ本社およびアジア・パシフィック地域のジョンソン・エンド・ジョンソングループからは、合わせて約5億7,000万円を寄付しました。



ボランティア活動

企業としての社会貢献活動だけでなく、社員ひとりひとりが自分の身近なところや関心がある分野でボランティア活動に取り組むことをめざしています。ボランティア活動への参加をサポートするため、社内へボランティア情報を発信しています。

声の花束

視覚障害をもつ人々や活字メディアによる情報入手が困難な人々のために、さまざまな情報を人の声で配信するインターネットサイト「声の花束」に、社員が音訳ボランティアとして参加。女性の健康情報の音訳を受け持っています。

(主催 日本フィランソपी協会)



第3回千代田区福祉まつり

千代田区内の企業が共同で運営するコーナーで、物品販売やゲーム担当のスタッフとして参加。福祉まつりの収益金は千代田区社会福祉協議会に寄付され、地域の福祉事業に役立てられました。

(主催 第3回千代田区福祉まつり実行委員会)

第23回全日本JBMAマラソン小田原大会

視覚障害者と健常者の合計600名がいっしょに走るマラソン大会に、視覚障害者ランナーのガイド役となる伴走ボランティアや、大会運営ボランティアとして参加しました。

(主催 日本盲人マラソン協会)



重度障害者レクリエーション

日頃、外出が困難な重度障害者の外出をサポートするボランティアとして、週末の1日を障害者の介助をしながら、中華街やよこはま動物園ズーラシアで過ごしました。

(主催 千代田区社会福祉協議会)

子どもの事故予防

国立成育医療センター(東京都)のプレイスペースで、子どもたちの見守りボランティアを行いました。来院者の多い夏休み、ゲームや展示と一緒に遊びながら子どもたちの身近にある危険について伝えました。

(主催 国立成育医療センター)

パキスタン地震

2005年10月、パキスタン北東部で発生したマグニチュード7.6の大規模地震では、パキスタンだけで死者7万3,000人以上、負傷者8万人以上、被災民約330万人にのぼり、さらに被害はインド、アフガニスタンにも及びました。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会では、避難所生活を送る子どもたちの病気の予防やこころのケア、教育の再開などの支援として、ユニセフを通じて330万円を寄付しました。

また、アメリカ本社およびアジア・パシフィック地域のジョンソン・エンド・ジョンソングループからは、寄付金と製品合わせて約4億円相当を送りました。



フィリピン地滑り

2006年2月、数日間降り続いた大雨が引き金となり、フィリピン南東部レイテ島で大規模な地滑りが発生しました。ギンサウゴン村をはじめ周囲の村々に被害は及び、死者・行方不明者は合わせて1,000人以上、多くの人々が生活基盤を失いました。

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会は、ユニセフに寄付金140万円を送り、子どもの生活や健康をサポートする活動に役立てられました。

また、アメリカ本社とアジア・パシフィック地域のジョンソン・エンド・ジョンソングループからは、寄付金と食料など約400万円相当を送りました。



写真提供：財団法人日本ユニセフ協会 © UNICEF Philippines

海外での社会貢献活動

世界57カ国に広がるジョンソン・エンド・ジョンソングループでは、世界各地における人々の健康なくらしの実現をサポートするため、主に5つの視点に基づき、それぞれの国や地域社会の課題解決に取り組んでいます。

Women's and Children's Health 女性と子どもたちの健康

中国・フィリピン 母親と子どもを救う安全なお産の推進プログラム

アジアでは出産によって母親と子どもの生命が危険にさらされている地域があります。中国 チベットでは妊産婦死亡率が中国平均の約10倍もあります。その主な理由は、地域全体が貧しいチベットの地方部では、ほとんどの女性が医療機関ではなく自宅でお産することにあります。フィリピンにおいては、出産の50%が医療機関以外で行われています。毎日およそ11人の女性が亡くなり、その4倍の女性が病気にかかっています。しかし、これはチベットやフィリピンに限ったことではありません。1999年ユニセフは安全なお産の推進プログラムをスタートしました。ジョンソン・エンド・ジョンソンからの寄付をもとに、自宅ではなく医療機関での出産を奨励する教育に力を注ぎ、さらに質の高い産科ケアを受けられる機会の向上をめざしています。



写真提供：UNICEF

Community Responsibility 地域特有の問題の解決

インド Vatsalya孤児院

サンスクリット語で“Vatsalya”は親の愛情を意味する言葉です。インド ムンバイのVatsalya孤児院では、何十人もの孤児たちが医療ケアスタッフの温かい愛情に包まれて育っています。ムンバイ中心街北部、ジョンソン・エンド・ジョンソンのオフィスからほど近いこの孤児院は、子どもの福祉を守る活動を中心とする信託基金Vatsalya Trust Mumbaiの創設に伴い、20年以上前に設立されました。現在、60人の子どもを収容できる能力を持ち、新生児医療施設と医療スタッフも備え、孤児たちへのケアを提供しています。ジョンソン・エンド・ジョンソンは、Vatsalya孤児院の医療費や運営費用を支援しています。



Access To Care 医療機会の提供

ガーナ 外傷治療の向上をめざすガーナ外科手術トレーニングセンター

西アフリカにおいて、外傷は重大なヘルスケア上の問題であり、主な死亡原因の一つです。そのため外科医への外傷管理トレーニングは不可欠です。2005年2月、International Aidとジョンソン・エンド・ジョンソン、そして西アフリカ外科学会(WACS)は、ガーナ外科手術トレーニングセンター(SSTC)を開設し、外傷の緊急治療をトレーニングするための先進的外傷手術管理(ATOM)コースをスタートさせました。現在西アフリカの外科医たちへの質の高いトレーニングによって、患者さんたちはより良い医療を受けることが可能になりました。



写真提供：Ghana Surgical Skills Training Center

Advancing Health Care Knowledge 医療従事者の育成・教育支援

アメリカ 管理職看護師トレーニング

23年間にわたり、アメリカをはじめさまざまな国の管理職看護師のリーダーシップ能力を高めることに貢献してきたジョンソン・エンド・ジョンソン-Wharton Fellows Programは、アメリカで最も長く運営されている看護師管理教育コースです。アメリカでもトップレベルのビジネススクールの一つ、ペンシルバニア大学Wharton校において毎年3週間集中で行われるこの教育プログラムは、医療業界の急速な変化に対応できる高い管理能力を持つ管理職看護師を育成します。このプログラムの卒業生は約900人。2005年は、アメリカ、オーストラリア、カナダから参加した43人の管理職看護師が財務、経営、そしてリーダーシップコースを受講し、卒業しました。



Global Public Health 世界的な保健問題への取り組み

インド Naz Foundation Trust 家族と孤児のためのケア

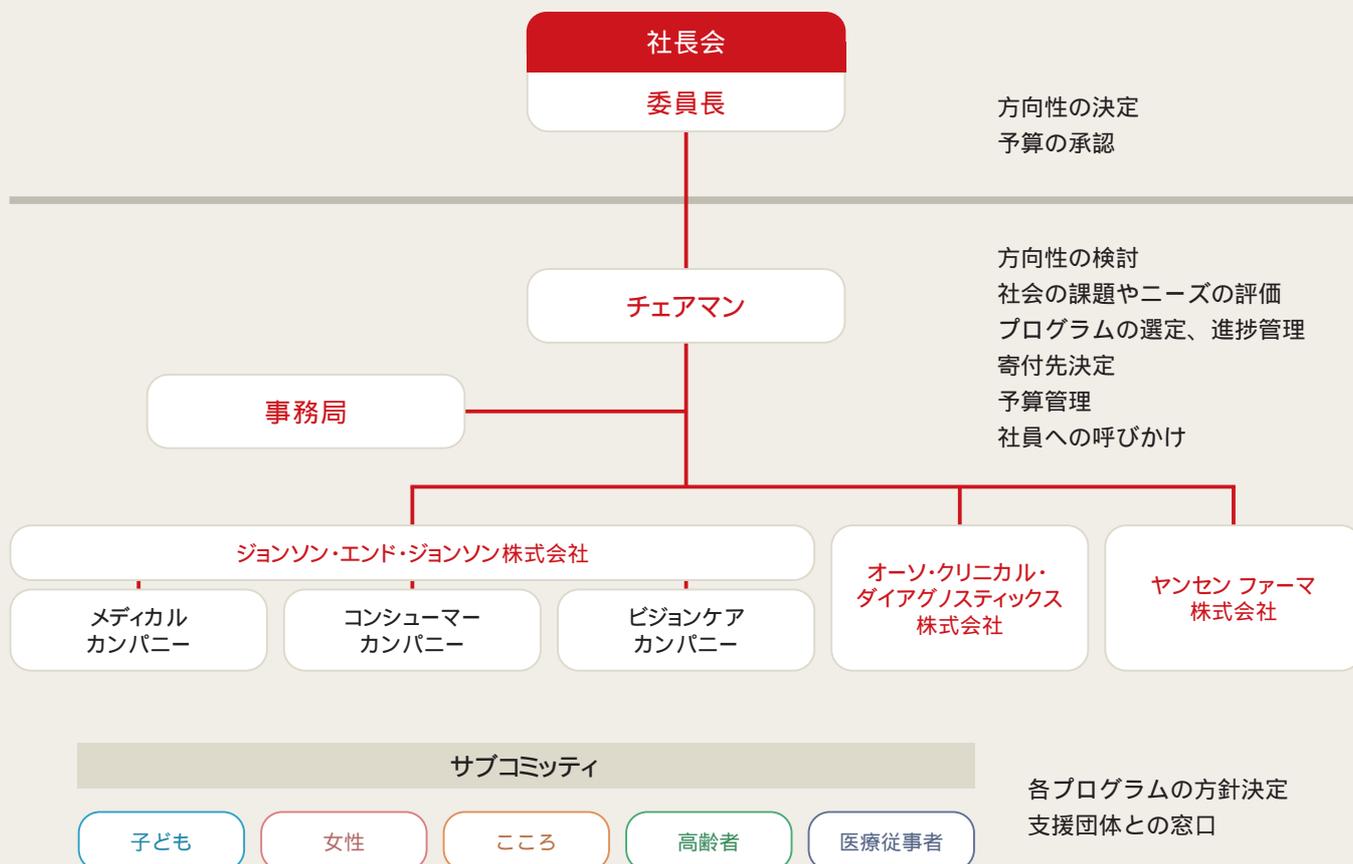
1994年インドに設立されたNaz Foundation Trustは、HIVに感染した子どもたちや家族、特に両親もHIVに感染し、医療的なケアを受ける経済的余裕のない家族に、家庭を基盤としたケアサービスを行っています。また、HIVに感染した孤児や、HIVに感染したために家族から見捨てられ、経済的に困っている女性たちを助けるためにケアホームを運営し、保護施設では孤児たちが十分な栄養と医療ケアと教育を受けて生活しています。ケアホームは外来患者へも治療やカウンセリングなど、治療のための全体的なアプローチによるケアプログラムを提供しています。2005年、ジョンソン・エンド・ジョンソンはケアホームと外来患者用施設の運営を支援しました。



写真提供：Naz Foundation Trust

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社（メディカル カンパニー、コンシューマー カンパニー、ビジョンケア カンパニー）、オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社、ヤンセン ファーマ株式会社が、共同でジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会を結成し、各グループ企業から参加する社員が中心となって活動を推進しています。



方向性の決定
予算の承認

方向性の検討
社会の課題やニーズの評価
プログラムの選定、進捗管理
寄付先決定
予算管理
社員への呼びかけ

各プログラムの方針決定
支援団体との窓口

Johnson & Johnson K.K.

ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社

メディカル カンパニー

外科、内科をはじめ幅広い診療領域で最新の医療機器・関連製品を販売しています。最先端医療のための技術導入や、患者さんの負担を軽くするための製品を通して、クオリティ・オブ・ライフの向上に取り組んでいます。

コンシューマー カンパニー

救急ばんそうこうなどのワウンドケア製品、歯ブラシなどのオーラルケア製品のほか、ベビー、ティーンおよびアダルト向けのスキンケア用品など、日々の暮らしに欠かせない衛生用品や化粧品を幅広く提供しています。

ビジョンケア カンパニー

1991年日本初の使い捨てコンタクトレンズを発売して以来、コンタクトレンズ市場を大きくリードしてきました。現在、タイプの異なる9種類の製品をラインアップし、目の健康とビジョン(視力・視界)の質の向上に貢献しています。

Ortho-Clinical Diagnostics
a Johnson & Johnson company

オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社

輸血、感染症、生化学、免疫血清など、臨床検査の各分野において、多彩な臨床検査診断薬・機器システムおよび情報の提供を行っています。人にやさしい医療、より質の高い医療をめざして技術開発に取り組んでいます。

JANSSEN
PHARMACEUTICAL

ヤンセン ファーマ株式会社

中枢神経系領域、鎮痛・麻酔領域、真菌症領域、がん領域の4つの重点領域で最先端の医療用医薬品を日本に導入、販売しています。また、最新の医薬品情報を医療の現場に提供し、医療と医薬の発展に貢献しています。

Our Credo

我が信条

我々の第一の責任は、我々の製品およびサービスを使用してくれる医師、看護師、患者、
そして母親、父親をはじめとする、すべての顧客に対するものであると確信する。
顧客一人一人のニーズに応えるにあたり、我々の行なうすべての活動は質的に高い水準のものでなければならない。
適正な価格を維持するため、我々は常に製品原価を引き下げる努力をしなければならない。
顧客からの注文には、迅速、かつ正確に応えなければならない。
我々の取引先には、適正な利益をあげる機会を提供しなければならない。

我々の第二の責任は全社員 世界中で共に働く男性も女性も に対するものである。
社員一人一人は個人として尊重され、その尊厳と価値が認められなければならない。
社員は安心して仕事に従事できなければならない。
待遇は公正かつ適切でなければならない。
働く環境は清潔で、整理整頓され、かつ安全でなければならない。
社員が家族に対する責任を十分果たすことができるよう、配慮しなければならない。
社員の提案、苦情が自由にできる環境でなければならない。
能力ある人々には、雇用、能力開発および昇進の機会が平等に与えられなければならない。
我々は有能な管理者を任命しなければならない。
そして、その行動は公正、かつ道義にかなったものでなければならない。

我々の第三の責任は、我々が生活し、働いている地域社会、
更には全世界の共同社会に対するものである。
我々は良き市民として、有益な社会事業および福祉に貢献し、適切な租税を負担しなければならない。
我々は社会の発展、健康の増進、教育の改善に寄与する活動に参画しなければならない。
我々が使用する施設を常に良好な状態に保ち、環境と資源の保護に努めなければならない。

我々の第四の、そして最後の責任は、会社の株主に対するものである。
事業は健全な利益を生まなければならない。
我々は新しい考えを試みなければならない。
研究開発は継続され、革新的な企画は開発され、失敗は償わなければならない。
新しい設備を購入し、新しい施設を整備し、新しい製品を市場に導入しなければならない。
逆境の時に備えて蓄積を行わなければならない。
これらすべての原則が実行されてはじめて、株主は正当な報酬を享受することができるものと確信する。



Johnson + Johnson

ジョンソン・エンド・ジョンソン 社会貢献委員会
Johnson & Johnson Contribution Committee

ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会は、「ジョンソン・エンド・ジョンソン 株式会社」、「ヤンセン ファーマ株式会社」、
「オーソ・クリニカル・ダイアグノスティクス株式会社」で構成されています。

〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号 TEL: 03-4411-6720 FAX: 03-4411-6794
URL <http://www.jjcc.gr.jp>



この印刷物は環境にやさしい
植物性大豆油インキを使用しています。



古紙配合率100%再生紙を使用しています。